

## 山からの呼び声



佐賀 彩美 (さが あやみ)

アイヌ語地名研究会

北海道出身。北海道大学法学部卒業。モンレー国際大学院(現ミドルベリー国際大学院モンレー校)通訳翻訳学科修士課程修了。全国通訳案内士。

からの呼び声」を聞いたから、衝動的に山に行きたくなり、神からの修業を受け、叫んだり転げまわったりしていたのだとい

昨年までの勉強会でテキストとしていた、ジョン・バチェラーの『アイヌの暮らしと伝承 よみがえる木霊』\*の

なかで紹介されていたお話です。バチェラーはイギリス人の聖公会宣教師で、自身もアイヌ語を話し、困窮するアイヌ民族を助け、アイヌ語の存続にも力を尽くしました。バチェラーが札幌に住んでいた頃、バチェラー宅に住み込んで食事や身の回りの世話をしていた夫婦がいて、その夫のほうはパラピタという名前でした。パラピタは雄弁を意味します (par-口を a-される<sub>2</sub> pita-解か<sub>1</sub>)。アイヌ社会では、言葉が大変重要で、「この世の全ての「もの」に魂がある」という大原則に従うと、もちろん言葉も「言霊」というくらいで、魂があります。チャランケという裁判でも、権利を主張する人たちがどれだけ言葉を尽くして説得力のある弁論をするかで勝敗を決するとか、神々への願いごとや感謝、ときには苦情を述べる時も言葉を尽くして行いました。神々に「良い言葉」を述べると神々が喜び、人間は恩恵を受けられると信じていましたし、人間の願いがまっとうなものならば、神々は聞き届ける義務があるということです。パラピタはこのような言語能力に<sup>た</sup>長けた人であったようです。バチェラーも、パラピタはアイヌ文化の伝統に忠実であり、大変真面目でアイヌ語しか話さなかったと述べています。しかし、時折風変わりな行動をとることがありました。それは、突然失踪してしばらく戻らなくなるということです。3日ほどして戻ってくると、見るからに憔悴し、衣服も汚れていたりしました。お酒を飲む人ではなかったのに、どこかで泥酔していたというわけでもなさそうです。そこで、訳を尋ねると、パラピタはチアスルアニ (ci-れる<sub>2</sub> asur-伝言 ani-を持って行く = 伝言を知らさ<sub>1</sub>)、つまり神々の啓示を受けるための「山

います。往昔はこのようなケースはままだ多くあったようです。何千年もの間、非常に自然に深く関わる生活を続けていたのに、明治新政府によって突然といてもよいほど急に、近代化した社会で生きることを強いられました。時には揺り戻しが起きて「山からの呼び声」が聞こえることも無理からぬことであったと推察されます。パラピタのような話は時々あり、白老のある娘さんが夜中に子どもを置いてどこかに行ってしまうといったケースでは、朝になるとやはり身体は泥にまみれ、全身アザだらけで戻ってきたそうで、本人に聞くと「お上人様に呼ばれた」と言っていたといひます。また、伊達市の男性が、自分では記憶がないが12時になると車で出かけ、気が付くとき行ったこともない平取の奥、フレナイの叔母の家の前にいたという話もあります。これは、稲荷神が原因で、お祓いをして治ったとのこと。カラフトでは、人間に呼びかけるのは、イカヨオヤシ (i-我々を kayo-呼びかける oyasi-化け物) という妖怪です。この化け物は一見普通の人の姿ですが、頭頂部に口があり人間を食べてしまうそうです。妖怪はかなり恐ろしいですが、「山からの呼び声」のお話は、なにか痛ましいものを感じます。人工的な環境で暮らすのが当たり前であり、「山からの呼び声」を聞くことのない私たちは、気づかずに多くのものを失っているのではないかと考えさせられます。

\*『アイヌの暮らしと伝承 よみがえる木霊』ジョン・バチェラー著、小松哲郎訳、1999年 北海道出版企画センター。



\*本稿は、アイヌ語地名研究会会長、藤村久和先生を講師として(一社)北海道開発技術センターが自主事業として実施しているアイヌ文化勉強会の内容を、藤村先生監修の下、筆者が取りまとめたものです。

藤村 久和 氏 北海学園大学名誉教授 北日本文化研究所代表 アイヌ語地名研究会会長  
アイヌ学全般(精神文化・口承文芸・衣食住・民族医療(整体ほか)等)を研究領域とすると共に、アイヌの人々が自然を管理することなく、いかに共存してきたかについて、その思想や哲学を自ら学び・実践している。また、アイヌ民俗文化財調査(北海道教育委員会)に従事し、道内に居住する古老の伝承話の聞き取り作業を行い、その成果が例年報告書として刊行され、資料篇等も随時刊行している。近年は、食育コーディネーターとして北海道の食育計画にも参画する。主な著書:『アイヌの霊の世界』(小学館、1982年)、『アイヌ、神々と生きる人々』(福武書店、1985年)、『アイヌ学の夜明け』(梅原猛氏との共編、小学館、1990年)、『アイヌのごはん』(監修、デーリィマン社、2019年)、『平成20~令和4年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民俗技術調査1~14』(北海道教育委員会、2008~2023年)等。